

科 目 名	障害児の理解と支援					開 講 キャンパス	神 園
担 当 者	池 田 久 剛						
開 講 年 次	3	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	様々な障害の中でも、知的障害と発達障害に焦点を当てて論ずる。特に就学前～学童期にかけてその理解や対応で困難を生じる、中～軽度の知的障害や、発達障害について、健常児とともに普通学級の中で生活する際に生じる困難についての理解を深め、対応を考える。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 中～軽度の知的障害・発達障害に対する不十分な理解がもたらす問題点について理解する。 2) 知的障害・発達障害という概念の大枠について理解する。 3) 医療モデル、感染症モデルによる「診断」と、知的障害・発達障害の「理解」との違いを理解する。 4) 「知能」の概念について理解する。 5) 「発達障害」の概念について理解する。 6) 知的障害について理解する。 7) 自閉症スペクトラム障害について理解する。 8) ADHD について理解する。 9) 学習障害について理解する。 10) 知的障害・発達障害に対する対応について理解する。						
学 習 方 法	講義形式で行う。						
テキスト及び参考書等	『カウンセリングとは何か〔実践編〕』（ナカニシヤ出版）						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	◎	◎	◎	60		
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	◎	◎	◎	◎	20		
受講者の発表							
授業への参加度	◎	◎	◎	◎	20		
その他							
合 計					100		
(表中の記号 ◎評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	講義の意図、今後の流れ、受講の心構え、諸注意等について						
第 2 週	知的障害や発達障害についての不十分な理解がもたらす問題について						
第 3 週	知的障害の概念とその変遷について						
第 4 週	知的能力の評価について						
第 5 週	普通学級の中での知的障害者の困難と対応について						
第 6 週	自閉症スペクトラム障害の概念とその変遷について						
第 7 週	自閉症スペクトラム障害の評価について						
第 8 週	普通学級の中での自閉症スペクトラム障害者の困難と対応について						
第 9 週	ADHD の概念とその変遷について						
第 10 週	ADHD の評価について						
第 11 週	普通学級の中での ADHD 者の困難と対応について						
第 12 週	学習障害の概念について						
第 13 週	知的障害者～発達障害者の抱えるそのほかの困難について						
第 14 週	知的障害～それぞれの発達障害の関連性について						
第 15 週	知的障害者～発達障害者の抱える二次的障害とその対応について						
第 16 週	試験						
備 考	・授業や評価について重要なことは、授業の冒頭に述べる人が多いので、遅刻して聞き逃すことのないように。 ・「試験」や「評価」にばかりとらわれるのではなく、授業の内容そのものについて深く考えてください。 ・遅刻、相対、授業中の私語など、授業の妨げになるような行為が続く場合、受講を制限することがあります。						